

令和5年度 大野地区地域課題解決検討会

記念講演・パネルディスカッション まとめ

○全体司会：飛石めぐみ氏（大野地区課題解決検討会 プロジェクトチーム）

1. 大野地区全住民アンケート中間報告

○報告者：佐中博一氏（大野地区課題解決検討会 プロジェクトチーム）

2. 記念講演

○講師：羽生ちひろ氏

○講演テーマ：「取材から見たまちづくり～ふるさと大野への思い～」

○内容：

▶ニュースの読み方のクイズ

▶外から見た大野の印象

⇒歴史が感じられる町並み、新しい店との融合もおもしろい、将来性に期待、酒、若い人が元気、「福井は海」というイメージを覆してくれた場所、自然・風景、おいしい食べ物、良い人が多い、五感で培える原風景があること



羽生ちひろ氏の講演の様子

▶まちづくりの重要な要素（事例紹介交えて）

①つながり：お買い物バス「あごころ」（福井市安居地区）、
公民館報 執筆リレー（阪谷地区）

②継続：田村のゆめづくり協議会の取組（小浜市中名田地区）

⇒1人1人に役割があり仕事をしたという実感が大事、派手にやらず小さなことからコツコツと

③変化：伝統芸能「こいとさ」（南越前町甲楽城地区）、伝統の民謡「糠どっさり」（南越前町糠地区）、荒島旅舎（大野地区）

⇒決まりにとらわれない、取組のハードルを下げる、新しい風を柔軟に受け入れて共に盛り上げる

▶これからのまちづくり：「柔軟な“結”のカタチ」を模索

・集落・地区を越えてタッグを結ぶ、デジタルを活用して後世に

▶まちづくりとは

・新幹線開業の契機を活かし、1人1人が自分のこととして考えていくことが大切

3. パネルディスカッション

- ・進行：羽生ちひろ氏
- ・パネリスト：合田昌範氏（泉町2区区長）
安井梨菜氏（大野を楽しむSNS「おおのそだち」運営、ふくい移住サポーター）
桑原圭氏（荒島旅舎運営、編集デザイナー）
小澤蒼大氏、倉内希菜氏、今井脩貴氏、幸河陽向氏（大野高校生徒会）
- ・内容：

《テーマ①：大野を漢字1文字で表すなら？》

合田氏	「源」 ・理由は、トンネルを抜けて見える広大な大地や原風景があり、水も豊かであるため、さんずい（氵）の源とした。
安井氏	「懐」 ・理由は、大野は懐が深いと感じるからである。 ・都会からUターンして5年目となるが、大野は個性豊かな人が多く、働き方も多様である。無関心でもなく過干渉でもないところが良い。 ・都会とは異なりフリーランスであっても保育園に入れやすく、子育てがしやすいと感じている。
桑原氏	「処」 ・大野市の和泉地区では週1回、地域の方を対象に食事を提供している。また、自身も荒島旅舎を運営しているが、大野には誰かにとっての居場所、人の拠り処が増えていると感じたため。
今井氏	「包」 ・理由は、大野が地理的に大野盆地に囲まれていることに加えて、地域の方が優しくしてくれる、声をかけてくれる温かい人に囲まれているからである。

羽生氏	（大野高校の生徒の皆さんへの質問） ・大野のお気に入りやSNS映えスポットはあるか。
倉内氏	・お気に入りの場所は「荒島の郷」で、理由は普段とは違った特別な買い物ができるからである。 ・SNS映えスポットは「天空の城 越前大野城」である。

《テーマ②：ビジネスの可能性、大野で働くということ》

合田氏	・大野で事業をいちから始めるのは都会よりも大変な部分はある。 ・サイドビジネスなどビジネスの種を見つけていくこと、兼業や副業から始めてみることも重要である。
安井氏	・実際のお店で働くことで、子育ての相談を受けたり、仕事の窓口となっている。

	・「結の故郷ビジネスサポートチーム（結サポ）」として、月に1回、地元の事業所の支援を行っている。その中で、大野の方は、商品に対して強気な値段設定をする方は少ない印象がある。 ・大野では都会ではできない働き方ができると感じている。
桑原氏	・荒島旅舎を始めて3年目となり、ホステルでは食事の提供はしておらず、宿泊された方にはまちに出て欲しいと思っている。 ・大野の強みは、副業など専業でない働き方があることや自然のアクティビティがあることだと感じている。一方で弱みとしては、様々な動きはあるがそれが繋がっていないところだと思う。
羽生氏	・高校生の皆さんはビジネスというとなじみがないかもしれないが、大野にこんな施設や場所があるといいなと思うことはあるか。
幸河氏	・大野の豊かな自然を活かしたフォレストアドベンチャーなどがあると良い。名水を活かした水遊びや体験ができる場があると良い。

「テーマ③：10年後こうあってほしい 未来予想図」

合田氏	・今の大野のままで変わって欲しくない。JR 越美北線も継続して欲しい。 ・まちなかの賑わいは変わって欲しい。木陰からまちの風景を見れると良い。 ・自分ができることは、色んな人の取り組みを繋げていくことだと思う。
安井氏	・子どもが笑顔になって欲しい。そのためには、大人も笑顔になれることが大切だと思う。
桑原氏	・今ある地元の銭湯や和菓子屋さんなどが残って欲しい。また、若い人が自己実現できるまちにもなって欲しい。 ・自分ができることは、大野にまた来てくれる人を増やすことである。
小澤氏	・大野に子どもがたくさんいて、七間通りに賑わいをもっとあると良い。 ・自分たちができることは、文化を継承することや新しい文化をつくることだと思う。例えば、名水マラソンや夏に雪まつりを行うなど。
幸河氏	・大きな冷蔵庫に冬の雪を残しておいて、かまくらをつくり、そこでバーベキューをするなどの意見が高校生から出ていた。

「参加者からの質問・感想」

・大野に移住した人が変わらないで欲しいという意見が良かった。若い人が帰って来れるまちになるよう頑張りたい。



パネルディスカッションの様子